

木田市長の

どろんどろんと
コミュニケーション



Vol.99

「春の園遊会」

突然、予想だにできなかった春の園遊会への招待状が届きました。政令指定都市を除く全国約八百市の中で十二名の市長が招待されたということで、以前東海市長会の会長を務めたということがこの招待に結びついたのかなと思ひあたりました。園遊会は皇居で開かれるものとはばかり考えていましたが、会場は皇居ではなく赤坂御苑であるということが分かりました。ところが参加をして、この赤坂御苑がとても素晴らしい所であるということに気づかされました。普段は、もちろん一般の人が入ることができません。東宮御所や迎賓館があり、皇太子殿下や数名の皇室の方々が住まわれているところです。赤坂御苑の中はバスで進んでゆくと、深山幽谷とまでは言いませんが、

とてもここが東京のご真中とは思えない森や野が広がっています。会場近くになると芝生や大きな池が連なり、例えていうと岡山の後楽園という庭園に似ていると感じました。会場のあちらこちらにテントが設けられており、飲み物やオードブル、焼鳥やジンギスカンがふんだんにサービスされていました。たくさんの方の外国人も招待されており、牛肉や豚肉を食べることができない方があり、羊肉のジンギスカン料理が出されるということを知りました。会場では多くの有名人、政治家として知り合いの人達に会いました。たまたま会った杉良太郎さんが私の名札を見て「鳥羽つてすぐ美しいところです。私長さんの名刺をください。」と

言ってくれました。有名人からのありがたいお言葉でしたが、私はどちらかというと杉さんのそばに居る五代夏子夫人との会話を楽しませてもらいました。また、私達が並んでいるところには、鈴木三重県知事、山本県議会議長、舛添東京都知事そして京都市長などがそれぞれご夫妻で次々と集まられ、話に花が咲きました。

そして、首を長くして待っている招待者のところへ天皇皇后両陛下は共に手を携え、ゆっくりゆっくり、一人ひとりの名札を見ながら歩いてこられました。皇后陛下が「あつ、鳥羽市長さん。」と言ってくださいましたし、皇太子殿下や秋篠宮妃紀子様も「その節はお世話になりました。」と言ってくださいました。これまで皇太子殿下や秋篠宮殿下が鳥羽へお越しになられた時、食事を一緒に食べていただいたり、鳥羽について説明させていただく機会があったからだと思います。鳥羽には度々皇族の方々がお越しください、その折々に接待させていただける鳥羽市長という立場に改めて感謝したところです。二千名の招待者と二千名の接待者が繰り広げる園遊会は、私達にとってまさに別世界でした。



Vol.131

備えあれば憂いなし

中国「殷」の宰相傳説の言葉。普段から準備をしておけば、いざというとき何も心配がないということ。人は憂いがあるから備えようと心掛けるものではないでしょうか。

4月2日、チリで地震が起こりました。その知らせを受け、東日本大震災の教訓から、津波に対する皆さんの対策や、心構えができるようになりました。今回も、国を始め、県や市町では迅速に対応を図りましたが、津波に対する考えかたは人によって違っているように思います。過去の体験や知識から学び、命を大切に防災教育に力を入れていることは、いざというときの備えとなります。

人権に対する考えかたも、常日ごろの心構えが大切です。その心を磨くのが教育にあると思います。何気ない言葉が相手を傷つけます。人を傷つける言葉は、相手の立場・気持ちになつてこそ初めて分かります。一人一人その人が体験してきたことの中で、受け止めかたが違い、傷つきかたも違います。学校においては、経験の少ない子どもたちに人権感覚を磨くことの学び（教育）が推し進められています。人権問題もさまざまあります。教育はその備えで、憂いがある人ほど備えをきちんとしようとするものだと思います。人を傷つける言葉や行為、人権侵害に対して感性を磨いていくことは、メディアの発達した今の時代、特に大切ではないでしょうか。

過去の体験や歴史に学び、語り継ぎ、親から子へ、子から孫へ命の流れを大切にしながら命の教育をすることが、相手の命を大切に、相手のことを思い合うこと、思いやりあふれる社会を築くことにつながると信じます。みんなで鳥羽市に人権文化の花を咲かせていきたいと思います。